



令和3年6月

スクールカウンセラー 中野隆治



「働くことと愛すること」



全く突然ですが、みなさんは、高校生としての今の自分をどんな風に思っていますか。

なんて自分は恵まれているんだろう、親友もできたし、自分の進む道も少しずつ見えてきたような気がする、幸せだと思う……こう考えている人もいるかもしれません。一方、なんて自分は不幸なんだろう、友人には魅力を感じないし、高校生活もつまらない、このまま、やる気のない時間だけが行くような気がする……中には、こんな思いに捉われている人もいるかもしれません。

次に紹介する詩の作者は、生きるという人間にとって最大のテーマに、一つの解答を与えているような気がします。

わたしは

わたしの人生から

出ていくことができない

ならば ここに

花を植えよう

くどうなおこ
(工藤直子「花」)

人をも、自分自身をも心なごやかにし、慰め、豊かにする花を植えるという作業を行うと宣言しているのです。もちろん、花に仮託された作者の生き方が語られているのが分かります。現実に対して、人はポジティブに捉えたり、ネガティブに陥ったりします。ただ、人生を通してみれば、その人の捉え方や受け取り方が、その人の人生に大きな影響を与えていることは間違いありません。現実を幸福とみるか、不幸とみるか、たとえ不幸だと思われる状況の中でも、花を植えることはできないだろうか……そんなことを考えさせてくれる詩のように思いました。

心理学者のフロイトは、人間の生きる目的は、「働くことと愛すること」と言っています。人々とともに働き、人々を愛しながら、人生を生きることを否定する人はいないはずですが。人間関係や進路などに悩む高校生のみなさんも、何のために生きるのかをもう一度考え直してみてもどうでしょうか。自分だけのために生きるのではなく、誰かのために、誰かの心を豊かにするためにと考えて行けば、自分の人生が今よりもっと華やかな色彩を帯びて、みなさんの前に映し出されるのではないのでしょうか。

「働くことと愛すること」……この二つのどちらをも、大事にした人生を送ってほしいと思います。